

学校目標・経営方針	高い志と挑戦する気概を持ち、何事にも主体的に取り組む生徒を育成する。
-----------	------------------------------------

本年度の重点目標	1 自ら学び、自ら考える態度を育成し、学力の定着と向上に努める。	達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	2 自主・自立の精神とコミュニケーション能力を培い、調和のとれた人格の育成に努める。		B 概ね達成できた。(6割以上)
	3 個に応じた進路指導の充実を目指すとともに、部活動をはじめとする特別活動やボランティア活動のさらなる活性化を図る。		C 不十分である。(4割以上)
	4 生徒の一生懸命な取り組みを評価、支援し、誇りと感動をもって学校生活を営めるような指導に努める。		D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自 己 評 価						
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	年度末評価(2月12日現在)		
				自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	生徒の学力向上のため、「巨摩スタイル」の確立を目指す取り組みを強化する。	管理職は授業参観を行い、主体的・対話的で深い学びの実現に向けICTの活用を含めた授業改善へ指導助言を行うことで、授業改善を加速させる。	管理職授業参観票 相互授業参観票	全教職員の授業を各学期に少なくとも1回は参観し、授業の評価及び指導助言などをその都度実施するなど授業改善に向けての取り組みを行った。 新型コロナウイルス感染症の感染予防のためにグループワークなどは減少したが、ペアワークなどを実践したことにより、授業評価アンケートでの生徒評価は昨年度より向上している。	B	各教室へのプロジェクタ等の情報機器は設置が終了した。今後は、生徒がICTを活用した授業を積極的に行う必要がある。主体的・対話的で深い学びを実現できるような授業改善を継続していく必要がある。
		改めて「巨摩スタイル」の内容を精査・具体化し、全教職員の共通理解のもと授業を実践し、生徒の学力向上を図る。	学校評価アンケート 授業評価アンケート			
		生徒の授業評価を適切にフィードバックし、授業力の向上を図るとともに、生徒の実態に合った授業改善を行う。	授業評価アンケート			
		面談等を通して、家庭学習時間や学習方法について個に応じた指導助言を行う。	学習時間調査 スタディ・サポート			
2	スーパーサイエンスハイスクール研究指定校として培った成果を学校全体で共有し、課題を自ら発見できる生徒を育成する。	理数創造コースを中心に、キャリアビジョン支援事業となった地域交流事業を企画運営し、主体性とコミュニケーション能力の向上を図る。	行事参加者アンケート 学校評価アンケート	キャリアビジョン支援事業と連携することで地域交流事業を実施する企画を立てたが、新型コロナウイルス感染症の影響で対面で実施することはできなかった行事が多かった。そのような状況の中でも、地域のCATVの協力を得て地域に情報発信を行ったり、ICTを活用してインターネットに情報を公開するなどの活動を行った。	B	本年度より全教職員が関わる学校行事として取り組み始めたが、新型コロナウイルス感染症の影響で予定通り実施していないため、次年度改めて体制づくりの確認が必要である。 生徒の一部ではなく、全生徒のコミュニケーション能力の向上を図るための事業の検討も必要である。
		地域に根差した交流事業とするために、全職員で企画運営に当たり、行事の成功につなげる。	学校評価アンケート			
		総合的な探求の時間などを利用し、自ら課題を見つけさせ、その成果を学校内外に積極的に発信させる。	行事参加者アンケート 学校評価アンケート			
3	進路目標実現のため、教科・学年・分掌が協調しながら、一丸となって指導を推進する。	生徒一人一人が高い目標をもち、その実現に向けて切磋琢磨できる学習環境を整える。	授業評価アンケート 進路実績	担任や学年の先生と信頼関係ができていという生徒が8割を超え、進路意識の高揚を図るための取り組みも高評価を得ているが、個別指導の資料となる学習記録等を記録する手帳の活用方法については、生徒の主体的な活動を促すためにも改めて検討する必要がある。	B	生徒の自己管理能力の向上を図るための取り組みとして、手帳を導入したがまだまだ効果的な活用になっていない。担任を中心に学年の取り組みとして実践する必要がある。
		生徒の自己肯定感を高められようような指導を行い、学校生活や進路の目標設定を適切に行えるよう指導する。	学校評価アンケート 進路希望調査			
		教師が率先垂範することで、生徒との人間関係を構築し、学校生活全般において適切な指導助言を行う。	学校評価アンケート			
4	部活動などの特別活動において、生徒が自己肯定感、達成感をもてるような指導を実践する。	部活動や学校行事に積極的に参加させることで様々な体験をさせ、充実感や達成感を得られるような活動を推進する。	学校行事アンケート 学校評価アンケート	学校行事や各種大会が中止となり、ボランティア活動も積極的に行うことができず、生徒にとっては達成感を得られる機会が減少してしまった。そのため校内行事については感染症の予防対策を講じながら、できるだけ実施できるような内容に変更し、実施した。	B	今後も新しい生活様式を意識した活動が求められていくと考えられるため、学校行事や部活動について実施内容を変更するなどして、できるだけ中止にしない取り組みの検討が必要である。
		ボランティア活動などに意欲的に参加させ、視野を広げるとともに調和のとれた人格の育成を図る。	学校行事アンケート 学校評価アンケート			
		メンタルヘルスケアや特別支援教育について、教職員の共通理解のもと相談体制の充実を図る。	学校評価アンケート			
5	本校の特色や活動の成果を、あらゆる機会を通じて地域に発信・紹介し、信頼される学校づくりに努める。また、安全で信頼される学校づくりの推進に努める。	学校説明会やオープンスクール等で中学生に本校の良さをアピールするとともに、学校案内や巨摩高だより、HPを通して日頃の活動を広報する。	行事参加者アンケート 学校評価アンケート	本年度は、中学生に直接アピールする機会は、オープンスクールのみとなった。巨摩だよりや学校案内等を、管理職が近隣中学校を訪問、配布してきたが、生徒に直接学校をアピールする機会は必要であると感じた。	B	感染症対策を講じながら、地域に根差した学校づくりを行っていることを、直接生徒や保護者に広報する機会を作っていく必要がある。 部活動やユネスコスクール等を通じて交流も積極的に行っていく必要がある。
		部活動を中心とした地域貢献事業を推進する。	行事参加者アンケート 学校評価アンケート			
		地域や家庭と連携・協力し、防災教育・安全教育を実践する。	学校評価アンケート			

学校関係者評価	
実施日(令和3年2月17日)	
評価	意見・要望等
3	ICT活用と「巨摩スタイル」の取り組みを一体化させて、より具体的な実践方法について検討してほしい。 子どもたちが頑張れる意欲の源は、「学校が楽しい」ことである。学習活動をはじめ、様々な場面で子どもたちが活躍で作り、充実した学校生活を送れるような環境づくりを心掛けてほしい。
3	地域交流事業は対面実施は不可能であったようだが、地元CATVの協力を得て、TV放送することはとても良い取り組みだと思う。いろいろな方法で情報発信を心掛けてほしい。
3	生徒・保護者と教職員との相互理解ができていことはとても望ましい状況である。教職員は、今まで以上にカウンセリングマインドを持って、生徒・保護者の対応をしてほしい。
3	自己肯定感を高めるためには、特別活動もとても重要なファクターである。学校行事や部活動、SDGsへの取り組みなど生徒が主体的に活動できるよう、この分野でも「巨摩スタイル」を意識した取り組みをしてほしい。
3	SDGsやユネスコスクールなどの取り組みを近隣の小中学校と連携して行うことも生徒の主体的な活動の一つとすることができているので取り組みを検討してほしい。 「巨摩スタイル」を浸透することにより、前向きな学校を維持、発展していき、広報活動も積極的に行ってほしい。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
 (2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的な対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。